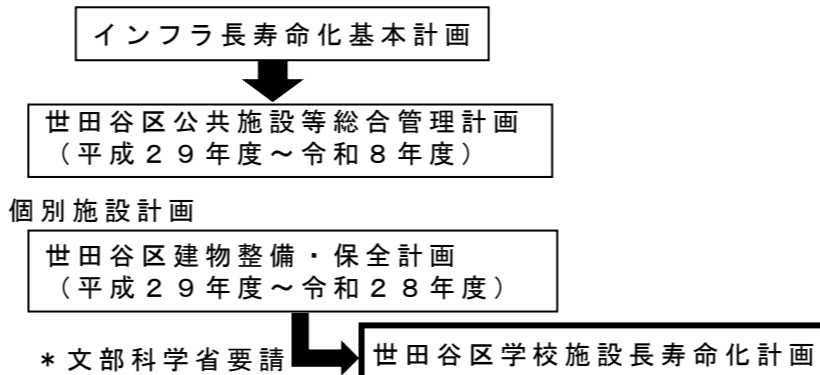


世田谷区学校施設長寿命化計画 【概要版】

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等 (本編p.2-3)

- (1) 背景 多くの学校施設は老朽化が進み、今後、更新時期を迎えるため、多額の財政支出が危惧される。
- (2) 目的 財政負担の軽減、平準化を図るため、長寿命化を推進し、計画的な老朽化対策に取り組む。
- (4) 計画期間 令和3年度～令和12年度(10年間)
- (5) 対象施設 小学校：61校 中学校：29校 幼稚園：8園

(3) 計画の位置付け



第2章 学校施設のめざすべき姿 (本編p.4)

第2次教育ビジョン(第2期行動計画 平成30年度～令和3年度)に示す以下の項目を掲げ、施設整備に取り組む。

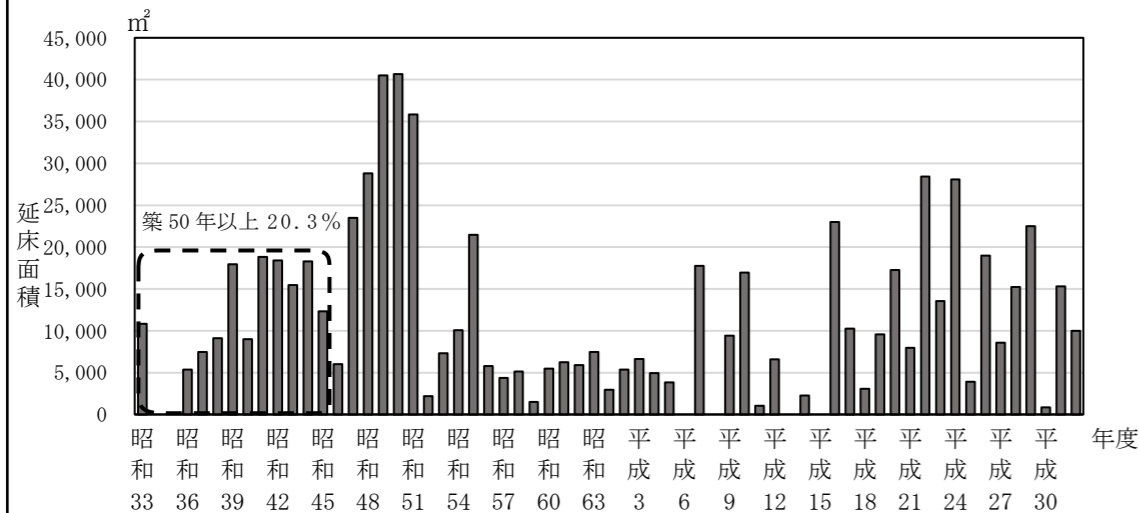
- ① 学校の適正規模化・適正配置
- ② 地域に貢献する学校改築の推進
- ③ 安全・安心の学校施設の改修・整備
- ④ 環境に配慮した学校づくり

第3章 学校施設の実態と課題 (本編p.5-20)

(1) 学校施設の面積割合

区が保有・管理している公共施設の延床面積約130万㎡の内、学校施設は、約70万㎡と全体の約54%を占めている。

(2) 学校施設における現存建物の建築年度の状況



* 学校・幼稚園における現存する建物の建築年度別の保有状況を示しています。

(3) 学校施設の築年数(校数)

築年数	小学校	中学校
60年以上	1	2
50年以上60年未満	30	11
40年以上50年未満	10	10
30年以上40年未満	0	1
20年以上30年未満	4	1
10年以上20年未満	4	1
10年未満	12	3

(4) 学級数(校数)

学級数	小学校	中学校
31学級～	2	0
25～30学級	9	0
19～24学級	21	2
12～18学級	27	7
6～11学級	2	18
～5学級	0	2

(5) 児童・生徒数の推移・推計

児童・生徒数は、昭和50年代から60年代をピークに減少してきたが、平成14年以降、再び増加に転じた。令和2年5月現在、児童数38,043人、生徒数11,020人となっており、「世田谷区将来人口推計」(平成29年7月)では、今後も児童・生徒数が増加する予測となっている。

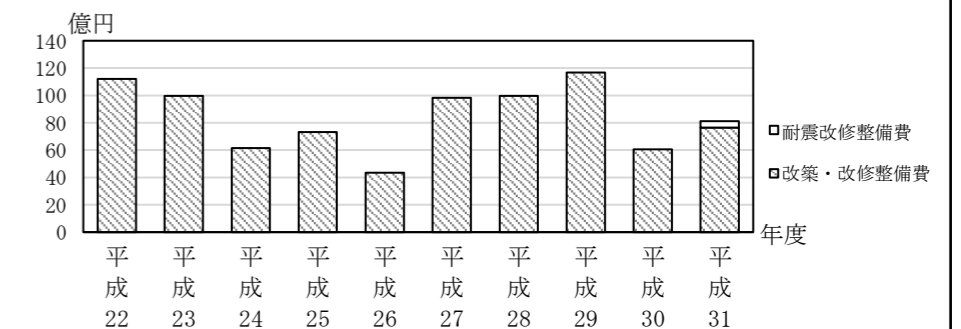
(7) 光熱水費の推移

平成22年から平成31年までの過去10年間においては、年間平均約14億円で推移している。

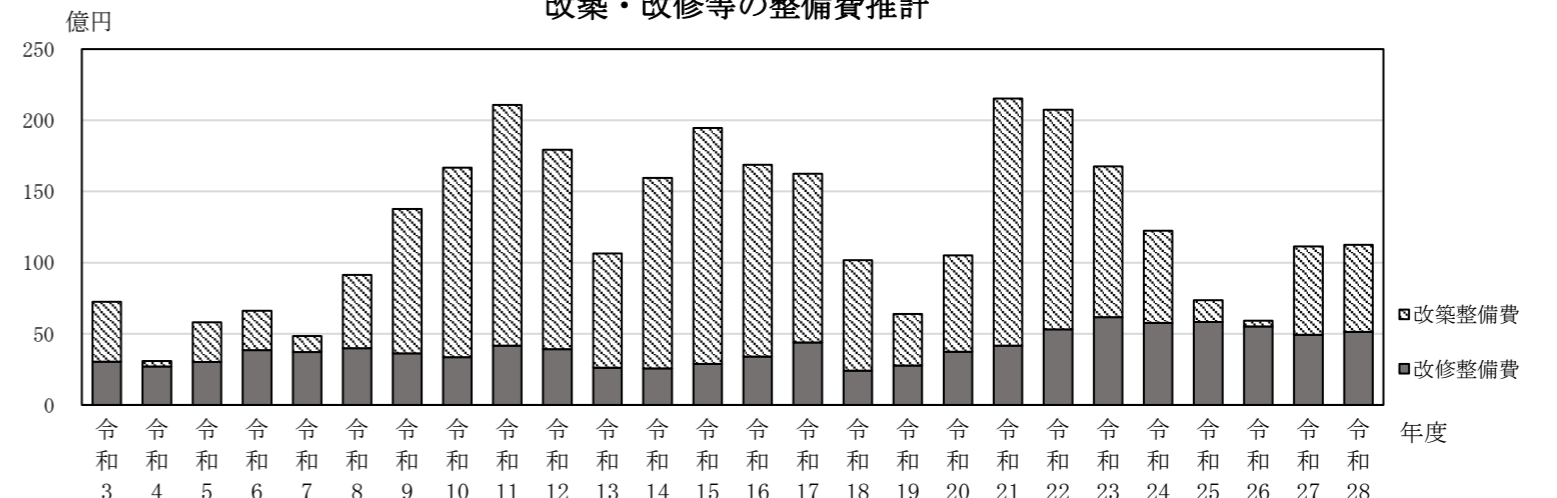
(8) 将来コストの見通し(平成29年3月・公共施設等総合管理計画策定時)

今後、多くの学校が更新時期を迎えることから、令和9年度以降、年間経費が100億円を大幅に上回る状況が続いています。

(6) 改築・改修等の整備費の推移



改築・改修等の整備費推計



* 一定条件に基づいて推計した値です。

第4章 学校施設の整備に関する基本的な考え方 (本編 p. 22-26)

(1) 学校施設の規模・配置の考え方等

- 「世田谷区立小・中学校の適正規模化・適正配置に関する具体的な方策」に基づいて統廃合、通学区域の変更、増改築等に取り組んできたが、引き続き、児童・生徒数の推移等を見極めるとともに、小学校全学年35人学級に向けた国の動向を踏まえながら対応する。
- 幼稚園については、「区立幼稚園用途転換等計画」（平成26年8月策定）に基づき、認定こども園への移行等についての検討を進める。

(2) 学校施設の活用の考え方

改築等に合わせて他の公共施設との「複合化」「共有化」を推進する。

(3) 改築・改修等の基本的な考え方

① 学校施設の大規模な改修

築10年以内の学校施設の改修周期は原則20年とする。

② 学校施設の老朽化対策

改築は、築65年を目安に、順次行う「棟別改築」を基本とする。また、建物調査等の結果、長寿命化が可能と判断した施設は、長寿命化改修を行った上で、更に30年程度使用する。

(4) 長寿命化の実績

深沢中学校 一部改築・長寿命化改修(平成25年度～平成29年度)

(5) 周期的改修・整備及び長寿命化改修のフロー

築45年目頃に長寿命化調査をした上で、改築・長寿命化の整備検討を行う。

第5章 基本的な考え方等を踏まえた施設整備 (本編 p. 27-30)

(1) 改修等の進め方

子どもたちの安全・安心な教育環境の確保に向けて、①安全面、②機能面、③環境面の観点から、施設ごとの状況に応じ、優先度を精査した上で実施する。

(2) 長寿命化の整備水準等

既存建物の躯体を活かし、フルスケルトンによる改修を行い、耐震性強化やバリアフリー化、環境負荷低減の措置を施し、建物の長寿命化とともに、教育環境の質的向上を図る。

(3) 他の公共施設等との「複合化」や「共有化」

複合化等の計画にあたって、施設の管理・運営に配慮する。

(4) 予防保全への取り組み

施設の状態の把握と不具合を未然に防止するため、日常点検とともに定期点検や自主点検の結果を踏まえた「予防保全」に取り組む。

第7章 長寿命化計画の継続的運用 (本編 p. 35)

(1) 現状データの蓄積・活用

法定・日常点検結果、改修・修繕履歴のデータを蓄積し、改修計画に活用する。

(2) 推進体制の整備

適切な維持・保全に向けて、学校、関係部署との連携を図る。

(3) 計画の見直し

総合管理計画の改定や社会情勢等の変化に応じて見直しを行う。

第6章 学校施設の長寿命化に向けた実施計画 (本編 p. 31-34)

(1) 改築・長寿命化等の優先順位の考え方

「世田谷区建物整備・保全計画」の第1～3期の区分を基本に整備を検討するが、長寿命化改修の適否とともに、耐震性、児童・生徒数の増加状況、他の公共施設との複合化などを勘案して次期改築校を選定する。

	第1期 (平成29年度～令和8年度)		第2期 (令和9～令和18年度)		第3期 (令和19～令和28年度)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
整備検討対象校	山野小学校 (改築済み) 下北沢小学校 (改築済み) 若林小学校 (改築済み) 代沢小学校 (改築済み) 池之上小学校 (事業中) 砧小学校・砧幼稚園 (事業中) 松原小学校 (一部改築工事中) 瀬田小学校 (一部改築事業中) 深沢小学校 八幡小学校 世田谷小学校 弦巻小学校	八幡中学校 (一部改築事業中) 弦巻中学校・松丘幼稚園(事業中) 駒沢中学校 梅丘中学校 奥沢中学校 松沢中学校	三宿小学校 世田谷小学校 旭小学校 駒繫小学校 弦巻小学校 山崎小学校 中丸小学校 代田小学校 三軒茶屋小学校 赤堤小学校 松丘小学校 深沢小学校 二子玉川小学校 奥沢小学校 尾山台小学校 東深沢小学校 東玉川小学校 九品仏小学校 用賀小学校 玉堤小学校 烏山小学校 明正小学校	松沢中学校 瀬田中学校 砧中学校 三宿中学校 梅丘中学校 太子堂中学校 富士中学校 駒沢中学校 千歳小学校 深沢小学校 八幡小学校 等々力小学校 玉川小学校 経堂小学校 中里小学校 祖師谷小学校 松原小学校 笹原小学校 武蔵丘小学校	三宿小学校 世田谷小学校 中丸小学校 代田小学校 三軒茶屋小学校 松丘小学校 池尻小学校 笹原小学校 尾山台小学校 東玉川小学校 桜町小学校 瀬田小学校 等々力小学校 用賀小学校 塚戸小学校 祖師谷小学校 明正小学校 喜多見小学校 武蔵丘小学校 希望丘小学校 千歳台小学校 九品仏小学校	桜丘中学校 北沢中学校 緑丘中学校 駒留中学校 梅丘中学校 桜木中学校 富士中学校 奥沢中学校 玉川中学校 瀬田中学校 深沢中学校 尾山台中学校 用賀中学校 千歳中学校 上祖師谷中学校 砧南中学校 喜多見中学校 八幡中学校 太子堂中学校

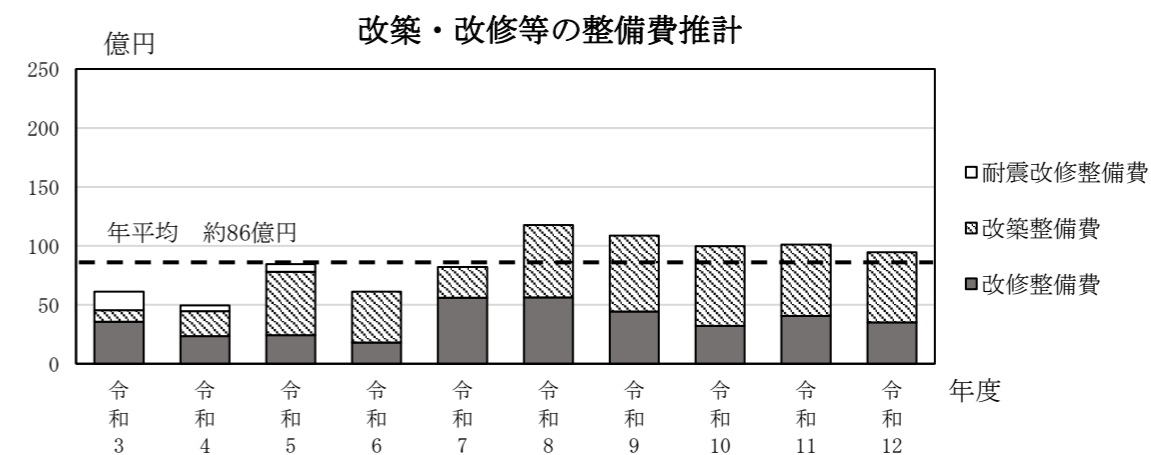
* 建物整備・保全計画に、改築、事業中等の状況、今後の予定を更新して再整理したもの。

(2) コストの削減への取り組み

第1期に更新時期を迎える学校については、必要な機能が維持できる最低限の維持保全とする。築10年以内の学校施設の改修周期は原則20年とすることで、改修等に要する経費の削減を図る。また、改築・長寿命化改修の実施にあたっては、取り壊しが前提の仮設校舎整備費を抑制する手法を検討する。

(3) 計画期間のコスト見直し

令和3～12年度の改築・改修等整備費において、改築・改修時期の平準化等の見直しにより、総合管理計画策定時(平成29年3月)の年平均約106.2億円と比べて、年平均約86億円となりました。



* 一定条件に基づいて推計した値です。

